

## エンパワーメントの向上を目指して

生活介護事業 支援員

## はじめに

3年前の実践発表で、利用者Aさんの得意な能力「発語」や「発声」を活かせるような活動やコミュニケーション等の環境を提供する事で、Aさんの日常にどのような影響があり、得意な「発語」や「発声」にどのような変化が見られたかを取り上げた。結果は、以前に比べ「発語」や「発声」を行う機会が増えた事で、職員とのコミュニケーションを行う質と量も増え、Aさんの要求に応えることが出来たり、好きな歌や遊び等の楽しみを共有出来たりと、充実した日中活動に繋がっていた。なにより、「発語」や「発声」を行っている時のAさんの得意げで嬉しそうな表情がとても印象的だった。それから現在までの約3年。この期間でもAさんの「発語」や「発声」は日々進化を遂げている。今回の実践発表では、この3年間で向上していった得意な能力「発語」や「発声」が、本人や周囲に与えた、更なる影響や変化を取り上げたいと思う。

## プロフィール

利用者Aさん・・・30代 男性 身体 1種1級 知的 A1 障害 脳性まひ  
発語・発声が得意 表情が豊か 歌や遊びが好き  
人見知り有り 慣れた人とのコミュニケーションが好き

職員B・・・・・・・・40代 男性 勤務歴 10年（生活介護勤務歴 5年）

職員C・・・・・・・・30代 女性 勤務歴 13年（生活介護勤務歴 4年）

職員D・・・・・・・・30代 男性 勤務歴 10年（生活介護勤務歴 8年）

職員E・・・・・・・・30代 女性 勤務歴 1年（生活介護勤務歴 1年）

## 事例紹介

3年間の本人の「発語」や「発声」の変化や、職員とのコミュニケーションについて、下記にいくつかの事例を挙げる。

### 【3年前】

- 朝の会で他の利用者さんの名前を呼ぶときと呼ばない時や、大きい声の時と小さい声の時の差があった。
- 利用している他事業所でよく聞いていた「風になる」や、昔から知っていたと思われる「ハイ ジュード」を流すと「デデデ」「ドゥドゥドゥ」と歌っていた。特に「ハイ ジュード」では、「ハイ ジュン」と得意げに歌っていた。
- 職員Bと新しい好きな曲探しをして、「Go West」を気に入りよく歌っていた。一緒に歌うととても喜んでくれて、職員Bが傍に寄ると、「デー デデ デーデー」と職員Bの方を見て歌い、曲を流すように要求するようになった。
- 職員CがAさんとの遊びの中で、「ワン！」と犬の鳴きまねをしたことがきっかけで、Aさんも「ワン！」と言うようになる。「ワン！」でコミュニケーションを取っているうちに職員Cの事を「ワン！」と呼び、お気に入りの遊びも「ワン！」と言って、要求するようになる。(他の職員には「あっ！あっ！」と要求)
- お気に入りの歌を「ワン！」で歌えると気づいてからは、「風になる」も「Go West」も「ワン！」で歌うようになる。職員と一緒に「ワン！」で歌うと大興奮していた。

### 【2年前】

- 朝の会では呼べなかった利用者さんの名前も徐々に呼ぶようになっていった。その日の気分もあるが、最初から最後まで大きな発語や発声で呼べる日もあった。
- 職員Cと新しい好きな曲探しをすると、昔から知っていた「ジャンボリーミッキー」や当時TVでよく流れていた「パプリカ」「はらぺこカマキリ」「おしり探偵プッとムフッとかいけつダンス」がお気に入りになる。
- 職員Cと一緒に歌いながら何度も聞いているうちに、「テッテー(ミッキー)」「タトテタ(パプリカ)」「トゥトゥットー(プッと)」と上手に言うようになる。それから職員Cが傍にいと「トゥトゥットー」等と言って曲を流すように要求するようになる。
- 職員Dが面白い曲があるとAさんに提供。「鮭ミラーボール」という、変わった曲調で時折Aさんが好きな「カンカンカン」という音が効果的に鳴り、すぐに気に入る。曲の中の効果音にタイミングを合わせて舌を鳴らしたり、「ボボボー」と歌えるようになり、やはり職員Dが近くにいると「ボボボー」と言って要求していた。
- 約半年くらい「鮭ミラーボール」にはまっていたAさんは、職員D以外の職員にも「ボボボー」と曲を流すように要求するようになっていった。

### 【1年前から現在】

- 朝の会での名前を呼ぶ時の発語や発音が上達。上手く呼べる利用者さんの名前を大きな声で発声して、とても喜ぶことがよく見られた。
- このころよく耳にする流行りの歌の「香水」「マリーゴールド」を気に入り、「デデデ」と歌うようになる。日が経つにつれて、利用者さんの名前を呼ぶ時の発語や発声で歌う

ようになり、近くにいる職員に、「ヤヤヤン(香水)」や、「〇〇ちゃ〜ん(マリーゴールド)」と言って曲を流すように要求する様になった。

ある時期から、本人の思い通りにいかないと思われる時に、否定を表す「知らん！」を発語するようになる。(それまでは気分が乗らない時などは、無言で視線を外していたり、顔を背けたりしていた) 機嫌が直るまで声掛けに対して「知らん！」と言いつける事も。なぜか訪問入浴の日に、職員Bが「今日お風呂やね。」と声をかけると、「知らん！！」ととても大きな声で必ず言っていた。また、職員Cが「また〜知らん知らんばかり言って〜。」と声をかけると、「ニヤッ」と笑って、発語が止まっていた。

- 新人の職員Eが、ふと「エプロン」の話をAさんにすると、首を横に振る新しい仕草も行うようになる。当初はAさんが笑顔でない事から否定や拒否であると思っていたが、エプロンの話題でない時にも首を横に振ることが多くみられる様になる。「あれ？エプロンの話してないよ？」と声をかけると首振りが止まり、「エヘヘ〜。」と笑っていた。それからはAさんが首を振ると「エプロンの話？」と聞くと毎回とても嬉しそうな表情を見せてくれて、職員Eと楽しそうに話をしていた。Aさんの職員Eとのコミュニケーションだったと思われる。
- 利用者さんの発声のマネをすることも増え、「マネしてるんか？」と声掛けすると、とても自慢げな表情で発声が続けていた。また、利用者さんとお互いに発声しながら楽しそうにしている様子も多く見られるようになった。

### 3年間でのAさんの変化

- この3年間でも「発語」「発声」が上達。「発語」「発声」での要求や、コミュニケーションを行う機会が格段に増えた。
- 新しいお気に入りの曲を見つけて、Aさんと職員が共に楽しむことで、一緒に曲を見つけた職員に曲を流すように要求するようになった。また、他にも好きな曲は無いかと多くの職員と接する機会が増えた。
- 新たな曲が見つかったり、新しい「発語」や「発声」が出来たりする事で、Aさんも職員もお互いに喜び合い、とても楽しくコミュニケーションを取り合う場面が増えた。又、Aさんの「発語」や「発声」での要求の意味が分かると、他にも要求は無いかと、さらに深くかかわるようになった。Aさんも要求が伝わるととても嬉しそうで、「発語」や「発声」が益々多く、大きくなっていった。
- Aさんが歳を重ねた事による経験や、各職員と関わった期間などの関係からか、要求の内容によって伝える職員を選択している様子も多く見られた。「この職員とはこれをする。」といった自分の意思をしっかりと表現しているようだった。
- 要求が伝わるようになったからか、「知らん！」といった、否定の表現も出てくる様になった。今までは表情から確認していたが、自分が求めていることや、思いと違うことに対して、「発語」や「発声」で表現が出来るようになり、要求とも合わせて、職員

とさらに深いコミュニケーションが取れるようになってきた。

- 他利用者さんの発声のマネをする事で、職員とのコミュニケーションだけでなく、Aさんは他利用者さんの事も意識して「発語」や「発声」を行って、コミュニケーションを図っている様子が伺えるようになった。Aさんが「発語」や「発声」を行う事で、他利用者さんも刺激を受けて、発声を行ったり笑ったりしている様子が多く見られた。

おわりに

今回は、主にAさんの好きな「歌」を通して、Aさんの得意な「発語」や「発声」にどのような変化がみられたかに注目していった。通常、ある程度の年齢からは、歳を取ると体力の低下等で、能力の向上は難しくなる中、Aさんは、もともと得意であった「発語」「発声」能力を向上させていった。それにより、以前にもまして、積極的にげんきの家での活動に参加できるようになり、充実した表情が多く見られるようになった。また、Aさんの新たな「発語」や「発声」が出ると、周囲の職員や利用者さんが巻き込まれて、もっとAさんとコミュニケーションを取ろうとしていた。結果、常にAさんの周囲は賑やかで楽しい雰囲気になり、その中で、また新たな「発語」等でのAさんの要求表現が出現し、新たなコミュニケーション方法が生まれ、Aさんにとっても周囲の人にとっても良い環境が作られていると感じた。

今回の実践から、Aさんが本来持っているほんの一部の能力が発揮、向上するだけで、職員のモチベーションが上がり、他利用者さんのコミュニケーション能力にも影響を及ぼしたと考えられる。そして、Aさん本人のげんきの家での充実した活動につながっていく“サイクル”になっていると実感できた。今後も生活介護職員として、利用者さんの細かな発信に敏感になり、本来持っている力を発見し、コミュニケーションを取り合いながら、本人、職員、そして他利用者さんにとって、良好な環境作りにつなげていければと思う。